# 平成30年度 富山県野生鳥獣保護管理検討委員会　議事録

１　日　　時　　平成30年５月28日(月)　10時00分～11時30分
２　場　　所　　富山県民会館702号室
３　検討事項
（１）富山県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画について
　・平成 29 年度事業の評価等について、平成 30 年度事業の計画内容について
（委員）
　事業評価について、イノシシの場合は捕獲数の増加に、シカは分布拡大の抑止に、それぞれ寄与できているということだが、どういう点で寄与できているのか説明が必要ではないか。
（事務局）
　指定管理鳥獣捕獲等事業の実施を通して情報提供や技術開発、普及啓蒙などでも捕獲数の増に寄与していることから、さらに具体的に記載したい。

（委員）
　ニホンジカの植生別の利用割合の中で、夏期について見ると、ヤマツツジーアカマツ群集が突出しているが、その理由は。
（事務局）
　環境省の植生図をもとに分類しているためヤマツツジーアカマツ群集が多いように見えるが、現地で調査していると、コナラーブナ林の場合が多いため、実際には突出していない。

（委員）
　銃や巻き狩りなどで活躍している人が、高齢化によって毎年減ってくる。これからの捕獲について、市町村との連携なども含め、どのように考えているか。
（事務局）
　わな免許所持者が増加する一方、銃猟免許所持者は減少している。銃猟に興味を持つわな免許所持者をいかにして銃猟免許所持者へ育てていくかが重要と考えている。大変ハードルは高いが、市町村の協力や猟友会のお知恵も拝借して検討していきたい。

（委員）
　イノシシの農業被害が大変多くなり､生息域も広がっている｡イノシシは警戒心が高いので、箱わなに慣れると入らない。市町村からすると、この事業で取り組んでいるくくりわなについて、大変期待をしている。

（委員長）
　猟友会だけに頼るのではなく行政で責任を持つ時期にきている。今回の評価では、組織論で人を訓練した・調査をした・予算措置を講じたという評価だけでなく、実際のアニマル・ウォー（動物との戦い）という局面で、どうしていくのかを考える必要がある。

　次に、次年度の計画というところでいかがか。

（委員）
　例えば地域が抱えている課題として、大学生に参加してもらうような取り組みというのは、全国的にあるのか。
（委員）
　「狩り部」とか学生がクラブをつくり「猟師」の勉強をする活動はある。その他では環境整備、集落周辺の堤防の刈り払い等を学生が行っているところはある。

（委員）
　次年度の計画として、捕獲専門チームを編成することになっているが、研修修了生をサポートして実績を上げられるような体制になっているのか。
（事務局）
　狩猟能力は高くないが最新の技術を学んでいるこの研修修了者と、現場の知識や狩猟に関する豊富な経験を持っている地元猟友会のベテランの方とを組み合わせて進めている。

（委員）
　事業の実施に当たり、一般の方にくくりわな等の捕獲道具の危険性を周知しているか。
（事務局）
　まず、わなを設置する場所の入り口に大きな看板を立て、くくりわなの上にＡ４サイズの目印を設置し注意喚起をしている。さらに、安全確保のため県内全市町村に、くくりわなの設置位置図を配布して周知を図っている。

（委員長）
　この計画は、行政の事業でやっていて、プラスに評価されるべきだと思う。

（２）2019 年度（H31）ツキノワグマ個体数調査の手法について
　　・第４期管理計画策定（2021 年：H33）のための調査
（委員）
　推定方法について、ベイズ空間明示型標識再捕獲モデル（個体数推定をするためのモデルの１つ。捕獲位置データを活用したモデル）の方は信頼性が高いのかどうか。また、括弧の中を見ると95%の信頼区間と書いてあり、ベイズの値の方が変動が大きくなっている。この要因は何か。
（委員）
　肝心なのは、リンカーン・ペテルセン（チャップマン方式）モデル（個体数推定をするためのモデルの１つ。標識個体の再捕獲を前提とする閉鎖個体群モデル）は再捕獲の調査範囲を恣意的にとってしまう。ベイズの方は、調査の範囲をデータに基づいて計算するため、誤差が大きくならないように調査地の設定をきちんとやらないといけない。この点、ブナオ峠では調査範囲が狭過ぎると言える。

（委員）
　カメラの数を増やすより捕獲率を上げる方が精度をあげられる。何か捕獲率を高くできるような工夫が必要。90%推定区間はかなり大きいように思う。

（委員長）
　ベイズ法では、秋田県の事例だと５頭分ぐらいの再捕獲でも収束しますという格好でできてしまうため、その場合、信頼の幅が非常に大きくなってしまう。
　今回の場合はどうかというと、今のところクマで、このカメラトラップとリンカーン・ペテルセンというやり方を、実際に秋田県や複数の県で使い始めている。

（委員）
　富山森林管理署は岐阜県沿いの国有林を広く管理しており、ここ10年、非常にクマが増えている印象がある。今の時期は、クマ剥ぎによる被害が無視できないほど増えている。その点で、ブナオ峠のところに着目し、調査することに賛成する。できる限り協力したい。

（委員）
　岐阜県、石川県などの隣接県と協力関係をこれから構築し、調査をすることで、精度や資金面でも効果的であると考えるがどうか。
（事務局）
　岐阜県は富山県と同じ調査方法のため協力が可能である。
　石川県は別の方法で調査しているが、石川県とも協力関係を構築していきたい。

（３）委員長総括
　今後ますます、被害を引き起こしている典型的な哺乳類が増加する状況のなか、この検討委員会は戦略をつくる集団であると思う。皆様の協力を得ながら進めていきたい。

－了－